

実践編(1)

3 オンライン講座実践例 — 大学におけるオンライン授業の取り組み —

松本榮次(兵庫県司法書士会)

(1) 大学でのオンライン授業の注意点

大学の授業では、100人を超える授業をオンラインで行うことも多くありますが、通常のオンライン会議や少人数でのZoomとは違ってきます。それは、人数が多いため、インターネットの回線を少しでも軽くするようにと、大学から指示を受けているからです。原則として学生の画像は写らないように指示し、音声はミュートで入ることになっています。そのため、教師としては、いかに学生とコミュニケーションをとるのか、一方的な授業ではなく対話的な授業を行うのかという点について、工夫する必要があります。たとえば、意見をチャットで求めたり、Zoomの投票機能を用いたりします。たくさん打ち込まれるチャットの意見を瞬時に読んで、すぐに授業でフィードバックしていきます。共通点のある意見を見つけたり、読み上げながらポイントを示したりすることで、双方向的な学習にしていきます。

今回は、大学における教職科目「総合的な学習の時間の指導法」において実践した取り組みを紹介いたします。教員を目指す大学生にとって、小中学生の児童や生徒に向けた法教育教材の内容を理解することは、とても重要であるといえるでしょう。

(2) 小学生向け教材実践例の紹介

まず、司法書士法教育ネットワークで開発した小学生向けの教材「**売買契約の基礎をマスターしよう!**」*1を使ったオンライン授業を紹介します。この教材は、日常生活のなかで多くの人が体験する場面を4コマ漫画に仕立て、売買契約の成立時期を検討するもので、そのなかで、契約とは何か、約束を守るとはどういう意味をもつのかを学びます。公益財団法人消費者教育センター主催消費者教育教材表彰2021消費者教育支援センター理事長賞を受賞した教材です。

大学の授業では、**図1 教材「売買契約の基礎をマスターしよう!」のワークシートの一部**(以下「4コマ漫画」という)を一つずつ、パワーポイントの共有画面で学生に提示しながら、契約が成立するのは、アイウエのどの瞬間であるかを、Zoomのチャット機能を使用して入力してもらいました。もちろんチャットだけではなく、投票機能を用いることで一斉に投票していった場合もあります。一つの場面ごとに、契約の時期をおさえるのではなく、まずは四つの契約画面すべてを順番に表示して、学生の意見を聴くことがポイントです。四つの場面において、自分で判断した考えをはっきりさせるためです。その場合、単に答えの番号を問うだけでなく、そう考えた理由をチャットにて記入していくことにしました。すると学生は、「お金を支払ったから」や「お金を支払い、商品を渡しているから」等の理由を答えてきます。このように、単に答えを入力するだけでなく、なぜそう考えたのかをしっかりと答えてもらうことが大切です。そして、このように自分で考えてチャットで答えてくれた

学生をほめます。すなわち、自分の考えをもち、その理由が言えたら合格、ということです。現在の法に照らして答えが合っているかどうかではなく、まずは自分の考えを自由に述べるができる状況を生み出すことに力を注ぎます。この教材では、まずは4コマ漫画の各事例を自力で考えて、契約の時期についての自分の考えをもつことができることを目指しています。

図1 教材「売買契約の基礎をマスターしよう!」のワークシートの一部







次に、レジでの問題に戻り、契約が成立する時期について説明しながら解説します。「売買することについて双方の意思が合致したときに契約が成立する」という考え方が、日本の民法では採用されていることを学生は理解します。そして、お金を渡したり、商品を渡した

りするのは、約束したことを果たすこと（債務の履行）であることを説明します。そのことを具体的に理解するのが、ピザの事例、本屋の事例です。ピザの事例では、電話で約束したときに契約は成立し、ピザ屋さんが持って来る途中ピザを道端に落としてしまい、食べることができない状態になってしまっても、ピザ屋さんには、形の整った食べられるピザを届ける義務があります。一方、注文したお客さんは、ピザ屋さんがピザを持って来たときにピザの到着を待ちきれずラーメンを食べてお腹がいっぱいになっていても、約束どおり代金を支払わなければならないことを学生は理解します。本屋の事例でも同様の展開になります。

最後に自動販売機の事例を確認します。これは人が登場しないので、どこで契約が成立したのかがわかりにくい応用問題です。ここでは、お金を入れたイの場面では、返却ボタンによって後戻りできることがわかります。オンライン授業では、ここで後戻りができるかどうかを一つのポイントとして取り上げます。通常は気が付く学生がいて、チャットで意見を述べてくれる場合が多くあります。契約がまだ成立していなければ、当然後戻りは自由であって、それも契約が成立したかどうかを見極めるポイントになることをおさえます。

4コマ漫画の事例が終わると、今度は、グループワークを行います。Zoomには、グループ会議を行う機能が備わっていますので、5人程度のグループに分かれて、消費者トラブルの問題を話し合います。教材では8つのトラブルを用意していますが、授業では、A「シュークリームの数足りない」というトラブルを取り上げました。

図2 教材「売買契約の基礎をマスターしよう!」のトラブルカードの一部

<p>【A】シュークリームの数足りない</p> <p>ケーキ屋さんでシュークリームを6個注文して箱につめてもらいました。</p> <p>家に持って帰って箱をあけたらなんと5個しか入ってなくて1個たりません。</p> <p>どうしたらいいの？</p> 	<p>【C】セーターが小さかった</p> <p>通信はん売のお店でさがしてみると、いろんなデザインのセーターが売られています。</p> <p>気に入ったデザインの商品があったので注文しました。</p> <p>数日後、商品が届いて着てみると…。「あれ、小さい」</p> <p>どうしたらいいの？</p> 
<p>【B】プリン賞味期限が切れていた</p> <p>今日のおやつにしようと思って近所のお店でプリンを買ってきました。</p> <p>家に帰って表示をよく見てみると賞味期限が昨日までだったことに気づきました。</p> <p>どうしたらいいの？</p> 	<p>【D】買った服を返して買いなおしたい</p> <p>デパートで、とてもかわいい服を見つけて買いました。</p> <p>帰り道、もっと安いねだんとてもよく似た服が売っているのを見つけた。</p> <p>デパートの服は返品してお金も返してもらってこっちの服を買おうと思うのですが…</p> <p>どうしたらいいの？</p> 

学生は、少人数になると意見が言いやすくなるので、グループにおいては、ミュートをは

ずして声を出して話し合うことを推奨します。恥ずかしいためか、あるいは声を出せない環境で学習している学生もいるためか、チャットで話し合っているグループもあります。教師は、各グループを回って話し合いの様子を聞きながら、アドバイス等の支援を行います。ときどき、静かで話し合っているかどうかわからないグループもあり、そのようなときは、指名して学生の意見を引き出すことも必要になります。

授業では、シュークリームが足りない場合、お店に電話をかける、あきらめる、お店にもう一度行く等、いろいろな意見に分かれました。グループでの話し合いが終わると、もう一度全体で、トラブルに遭遇したときに考えられる対応を、いろいろ話し合うことができました。最後に、そのようなトラブルに遭わないようにするために、お店はどんな工夫をしていますかと尋ねたところ、「ケーキ屋さんは、必ず箱を見せて、ケーキの種類と数の確認を実際に行っている」という意見が出ました。

(3) 紙芝居を用いた学習の紹介

司法書士の親子法律教室でよく用いられている教材「解釈のちから」^{*2}は、オンラインでも有効であり、授業を行いやすい教材の一つです。投票機能を用いて「橋を渡れる・渡れない」の意見を集約したり、画面共有で注釈のスタンプ機能を使って、善い決まりか、悪い決まりかの図に自分のスタンプを貼っていったりすることができ、視覚的にもわかりやすい教材です。この教材については、多くの実践例がありますので、ここでは、日本司法書士会連合会が作成した「提案のちから」^{*3}について報告します。

この「提案のちから」は、「解釈のちから」「相談のちから」とともに3部作の一つとして作成されたものです。実践例は少ないのですが、この教材はオンライン授業に向いています。「提案のちから」は、「提案のちからⅠ 提案空間創造編」（以下「紙芝居」という）と「提案のちからⅡ 提案王決定戦編」の2編からなる教材ですが、ここでは「提案のちからⅠ 提案空間創造編」を紹介します。

紙芝居は、「解釈のちから」に登場する茶店の話の続きになっていて、「解釈のちから」を経験した学生にとっては入りやすい内容です。

話は、和菓子屋さんのお店に洋菓子を勉強してきた弟が帰ってきたことから、和菓子屋をするのか、それとも洋菓子屋をするのかの対決から始まります。もめ事に対し、どのような解決の提案ができるかということをテーマにしたものです。紙芝居では、2択の問題が数問出てきて、話が進んでいきます。したがって、学習者にとっては、どちらがよりよい選択なのかという意識をもって各場面を判断していくことで、主体的に取り組みやすくなっています。オンラインで行う場合には、チャットでAかBのいずれを選択するかを、さらに理由がある場合は、その理由も一人ずつ記入してもらいました。

紙芝居の終わりにこの問題に対して、第三者のおばあさんになったとしてどうするかを、グループに分かれて、グループとしての提案を考えます。その後、全体の場でグループごとに発表します。「和菓子と洋菓子両方売ればいい」という意見や、「折衷した新しいお菓子を

作ればどうか」等、毎回おもしろいアイデアが出てきます。紙芝居は最後、びっくりするような予想外の結論で終わりますが、紙芝居の後に「〇〇〇が残った」という、この「〇〇〇」という言葉をグループで考えます。

図3 「提案のちから」の紙芝居の一部（「提案のちから」日本司法書士会連合会）



「家族の絆」や「和菓子と洋菓子」等、さまざまな意見が出て、授業は終わります。紙芝居の終わりのほうに、この紙芝居の場合はこうなったというだけで、実際の状況に合わせて考えていく必要があると注意書きが入ります。しかし、学生にとっては、紙芝居の答え等に納得いかないという場合もあります。したがって、この紙芝居を行う場合は、紙芝居に出てくる答えが絶対正しいという姿勢でなく、この紙芝居ではこのような進捗になっただけであり、どこが納得いかないのか、納得いかない理由などを出し合うことも大切であることを念頭に置いておくことです。

実際にこの紙芝居の感想には、紙芝居の答えに納得がいけないという意見が多数見受けられます。このように、教材を鵜呑みにするのではなく、教材を批判的に考えることもまた、批判的思考の能力を養うことにもなるので、広い視野に立ってさまざまな意見を許容する姿勢で、学生の支援を行うことが大切であると考えます。すなわち、教材の中で学習が終わるのではなく、教材を客観的に眺め、教材そのものを一つの題材として、みんなで話し合うことも視野に入れて指導する必要があるといえます。指導者側のほうにも、この教材では一つの答えに絞られるからいやだという意見がありますが、教師がどのように教材を利用す

るかで、教材の価値も変わってくるのではないかと思います。

(4)まとめ

大学におけるオンラインの双方向授業では、紙芝居や4コマ漫画のような視聴覚教材を用いることが有効であることがわかってきました。オンラインには、顔が見えにくい状態で授業を行うため、相手の反応がよくわからないという問題点があります。しかし、視聴覚教材を用いることで、学生は授業に集中しやすくなります。また、登場人物が問いを発することにより、考える課題・話し合う問題がはっきりし、話し合いがしやすい状況になります。これは、大学生だけでなく、児童・生徒・大人に対する法教育をオンラインで行うときにも同じであろうと考えます。今回は、大学における教職科目「総合的な学習の時間の指導法」において実践した取り組みを紹介いたしました。大学生の感想を見ても、今回紹介した内容を理解することは、小中学生の児童や生徒にとっても重要であると感じていることがわかりました。ぜひ、さまざまな場面において、オンラインの法教育を実践していただけたらと思います。

<参考情報>

松本榮次「児童の発達段階に「寄り添う」法教育 ―紙芝居教材『解釈のちから』を用いた実践を通じて―」法と教育 Vol.7、39-46 頁、2016 年。

<注>

- *1 司法書士法教育ネットワーク新しい消費者教育教材検討会制作『小学校5・6年生の家庭科教科書で売買契約の基礎をマスターしよう！―18歳で成年を迎える子どもたちへの新しい学び』（2020年）。司法書士法教育ネットワーク「売買契約の基礎をマスターしよう」、
http://laweducation.sakura.ne.jp/textbook_for_primary_school.html（2023年3月9日閲覧）にて公開。
- *2 福岡県司法書士会法教育推進委員会制作、久保山力也編著『紙芝居で学ぶ法教育教材「解釈のちから」』（福岡県司法書士会、2012年）。福岡県司法書士会「紙芝居で学ぶ法教育教材『解釈のちから』のご案内」、
<https://www.fukuokashihoushoshi.net/information/goods.html>（2023年3月9日閲覧）。
- *3 日本司法書士会連合法教育推進委員会制作、久保山力也監著『紙芝居で学ぶ法教育教材「提案のちから」 ― I 提案空間創造編、II 提案王決定戦編―』（日本司法書士会連合法、2020年）。

<編集者注> 執筆者の脱稿後、本追補版公開までの間に、上記*1 に記載の司法書士法教育ネットワーク公式サイトでの教材公開 URL が下記のとおりに変更されました。
https://houkyoiku.net/textbook_for_primary_school.html